

また、昨年の北海道日本ハム・ファイトーズは主力の怪我などで残念ながらクライマックスステージで敗退しましたが、大谷翔平選手など若手選手の力で今年は十年ぶりの日本一を勝ち取ってくれることを期待しております。

文化面では、北里大学特別名誉教授の大村智氏がノーベル医学生理学賞を、東京大学宇宙線研究所長の梶田隆章がノーベル物理学賞をそれぞれ受賞され、ユネスコ世界遺産の文化遺産には「明治日本の産業革命遺産」が登録されました。

続いて、町内の出来事を振り返りますと、百三十年以上にわたり、上ノ国の学校教育に多大な貢献を果たしてきた湯ノ岱小学校、早川小学校、小砂子小学校の三校が、昨年三月三十一日をもって閉校となりました。地域から小学校が無くなることは、言葉にならない寂しさを覚えますが、児童たちが新たに通う地域も、子供たちを変わず見守り続けています。

また、昨年四月以降のふるさと納税による寄附金額が、一億三千四百万円と、初めて一億円の大台

を超え、沢山の皆さまから応援を頂いております。

次に産業に目を転じて見ますと、農業では、北海道における水稻の作況指数は百四となりました。なお、檜山管内の作況指数は百一となりました。

一方、漁業は、イカ漁やホッケ漁など主要品目の漁獲量が大幅に減少したことが響き、漁獲量及び水揚げ額とも前年に比較して大幅に減少しました。このためアワビ、ナマコなど根付け資源の増大や昨年からの試験養殖を実施している青柳（バカ貝）、ホタテ貝、アサリ貝が成功することを期待しています。

次に地方自治体をめぐる諸情勢を顧みますと、地方自治体財政の健全度を表す財政四指標において、平成二十六年度決算における本町の指標はいずれも早期健全化基準を下回っております。

今年は申年、その特徴は「器用で臨機応変」とあります。私は今後ともチャレンジ精神を忘れることなく、新しい年に希望をもって明るく陽気に町のリーダーとしての役割を果たすために、町民皆

様・議会・行政が丸となって、第五次総合計画の基本理念として定めた「安全・安心」、「自立・自律」、「協働・参画」の精神に基づき、みんなで進めるまちづくりの実現を目指して取り組む決意であります。

私は常日頃から、まちづくりには何よりもまず、町民皆様が「自分たちが、自分たちの手で、自分たちの知恵でまちづくりをしている」という自負と責任を共有することが、何よりも肝要であると考えております。

「輝くまち・わたしたちの上ノ国」実現のため、皆様一人ひとりが町づくりに積極的に参加され、我が町が更なる発展を続けるよう、より一層のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

平成二十八年、この新しい年が明るい話題で満ちあふれ、町民皆様一人ひとりとって実り多い素晴らしい年でありますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

平成二十八年元旦